

第 60 次南極地域観測隊同行者編成（案）

1. 同行者枠について

○「しらせ」

- ・ 「しらせ」の乗船収容人数は 80 名。一方、第 60 次南極地域観測隊は 71 名（夏隊員 40 名、越冬隊員 31 名）により編成予定である。
- ・ 往路の経路において、そのうち最大 15 名については「しらせ」を活用しない。
- ・ 復路の経路において、60 次夏隊員 40 名、59 次越冬隊員 32 名のうち最大 15 名については「しらせ」を活用しない。
- ・ よって、「しらせ」に乗船する隊員の最大数は 57 名が見積もられ、「しらせ」同行者枠は 23 名（ $80 - 57 = 23$ ）となる。

○「海鷹丸」等

- ・ 「海鷹丸」に乗船する同行者は 8 名を予定。
- ・ 航空機を利用して往復する同行者は 2 名を予定。
- ・ よって、現時点の最大同行者数は 33 名（「しらせ」23 名＋「海鷹丸」等 10 名）となる。

2. 同行者編成について

- ・ 同行者の編成は、以下を基本に調整を図る。

分 類	同 行 目 的	人 数	
		「しらせ」	「海鷹丸」等
報道関係者	第 60 次南極地域観測隊に同行し、昭和基地等において現地取材、報道を実施。	2	—
教育関係者	小・中・高等学校の教員を昭和基地に派遣し、衛星回線を通じて「南極授業」を実施。	2	—
技 術 者	観測用小型ヘリコプターの運行、観測・設営計画に関わる技術支援、「しらせ」の航行安全に必須な諸試験等の実施。	6	3
行政機関職員	南極地域の環境の保護に関する法律の遵守状況の確認及び環境影響に関する情報の収集。	1	—
外国人研究者、国内研究者、大学院学生 等		12	7
小 計		23	10
総 計		33	

注) 人数は、現時点での計画数であり、今後の調整を経た上で、南極地域観測統合推進本部総会（連絡会を含む。）において決定される。